

有識者会議（第6回）の補足資料

【目次】

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1 人吉・球磨地域における主な観光関連産業 | … P. 1 |
| 2 将来人口推計の仕組み | … P. 2 |

出典：熊本県

厚生労働省社会保障審議会 第6回社会保障審議会人口部会 資料4 抜粋

人吉・球磨地域における主な観光関連産業

1 人吉・球磨地域の観光客の推移

(1) 人吉・球磨地域全体

(単位：人)

	H13	H14	H15	H16	H17	H18
総入込客数	2,705,379	2,829,773	2,905,598	2,788,955	2,899,641	2,816,308
うち宿泊客数	261,683	280,977	262,748	244,645	256,121	256,276
うち日帰客数	2,443,696	2,548,796	2,642,850	2,544,310	2,643,520	2,560,032

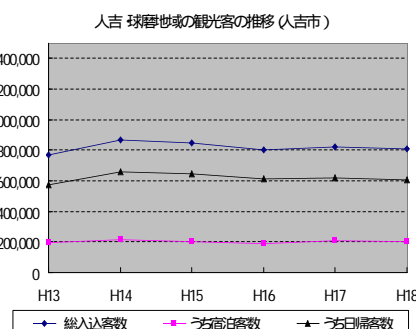
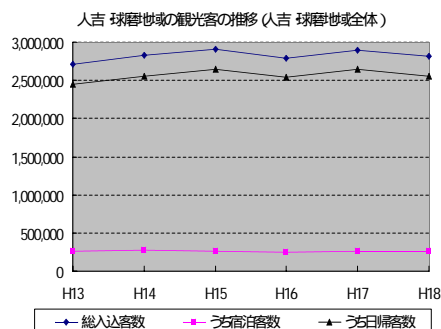
出展：熊本県観光統計表

(2) 人吉市

(単位：人、万円)

	H13	H14	H15	H16	H17	H18
総入込客数	770,177	869,343	849,208	801,214	822,782	809,065
うち宿泊客数	194,253	213,505	201,582	187,752	205,467	203,821
うち日帰客数	575,924	655,838	647,626	613,462	617,315	605,244
(参考)推定観光消費額	801,928	1,000,330	867,086	815,437	851,125	838,870

出展：人吉市統計年鑑

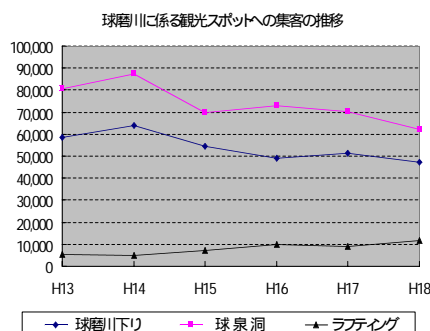


2 球磨川に係る観光スポットへの集客の推移

(単位：人)

	H13	H14	H15	H16	H17	H18
球磨川下り	58,551	63,933	54,668	49,076	51,181	47,150
球泉洞	80,540	87,310	69,827	72,880	70,359	62,040
ラフティング	5,629	5,120	7,164	10,068	9,221	11,713
合計	144,720	156,363	131,659	132,024	130,761	120,903

出展：熊本県観光統計表



内水面漁業漁獲量の推移

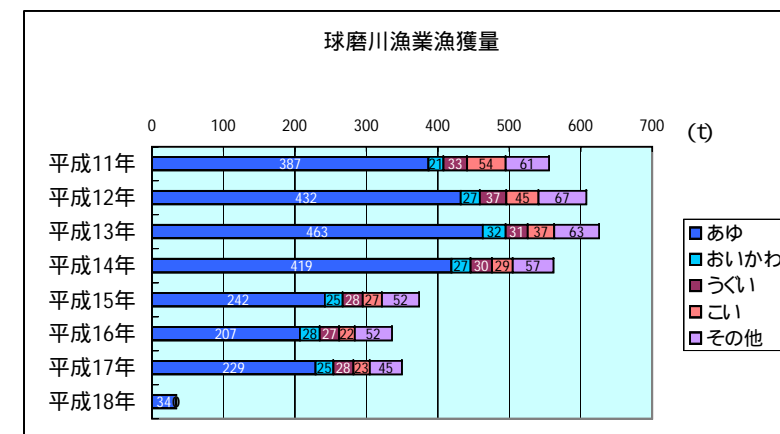
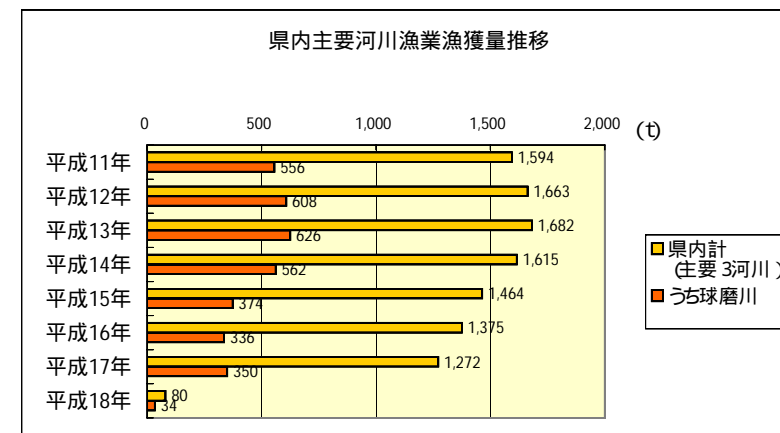
(単位 t)

	県内計 (主要3河川)	球磨川					
		計	あゆ	おいかわ	うくい	こい	その他
平成11年	1,594	556	387	21	33	54	61
平成12年	1,663	608	432	27	37	45	67
平成13年	1,682	626	463	32	31	37	63
平成14年	1,615	562	419	27	30	29	57
平成15年	1,464	374	242	25	28	27	52
平成16年	1,375	336	207	28	27	22	52
平成17年	1,272	350	229	25	28	23	45
平成18年	80	34	34	-	-	-	-

【出典】農林水産省統計部「内水面漁業生産統計調査」

主要3河川(県内)：菊池川、緑川、球磨川

平成18年から、内水面漁業生産統計調査の調査範囲が、販売目的として漁獲された量のみとしています(遊漁者による採捕量を含めない)。



将来人口推計とは — その役割と仕組み —

平成18年6月30日

国立社会保障・人口問題研究所

<http://www.ipss.go.jp/>

社会経済状況の見通しや政策効果を人口推計に反映させることについて

社会経済状況の見通しや政策効果の反映について

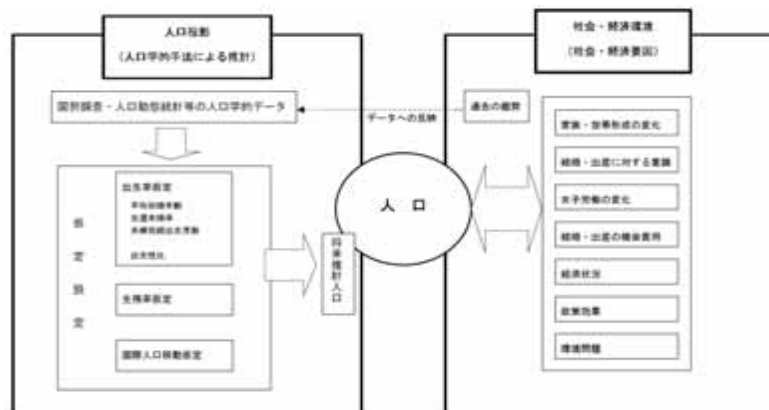
- ◎ 出生、死亡、移動などの人口変動要因と関連する社会経済要因は多岐にわたり、個々の定量的関係を特定することが難しいだけでなく、それらの相互作用をすべて勘案することは、現状において科学的に不可能である。
- ◎ また将来人口推計は、数十年に及ぶ長期の推計であるが、将来の社会経済状況をそのような長期間にわたって見通すこと自体が困難であり、投影に基づく人口推計よりも不確実性が高い。
- ◎ 政策効果についても同様に、人口統計指標との定量的関係を高い精度で特定し推計に応用することは困難である。



- ◎ 諸外国における将来人口推計においては、社会経済状況の見通しや政策効果を取り入れている例はなく、人口統計データに基づき、「人口投影」の考え方にしたがって行うことが標準的である。

将来人口推計と社会経済要因との関係

- ◎ 社会経済環境の過去の趨勢(右)は、観測された人口学的データの変化(左)に反映される。
- ◎ 将来人口推計は、そうした人口学的データや指標を投影することによって行われる。



将来人口推計とは — その役割と仕組み — (まとめ)

将来人口推計(投影)の目的・役割と方法

- ・ 将来人口推計は、広範な分野において使われており、客観性・中立性が求められる。
- ・ 将来人口推計は、人口変動要因の動向に一定の仮定を設定して人口を計算する「人口投影」の考え方に基づいて行われる。手法としては「コーホート要因法」が国際的にも標準的な方法である。

コーホート要因法

- ・ コーホート要因法は、出生・死亡・移動等の人口の変動要因に基づいてコーホート毎に将来人口を推計する方法である。①将来の出生動向、②将来の死亡動向、③将来の国際人口移動の動向を仮定設定として用いる。
- ・ 国など公的機関が行う将来人口推計では、これらの人口変動要因についても人口統計データの傾向を将来に投影することにより仮定設定を行っている。

将来人口推計と社会・経済要因

- ・ 将来人口推計において、社会経済環境の趨勢は人口統計データを介して仮定設定に反映されるが、直接的に推計に用いるものではない。
- ・ 将来の社会経済状況の見通しや政策効果を将来人口推計に科学的に反映させることはできない。諸外国における将来人口推計においても、これが行われている例はない。